



## 「じゃがいものうち」通信 NO.78. 2015.12.15

～障害者と共に生きる仲間たち～ NPO法人「じゃがいものうち」

QRコード



〒891-4404 鹿児島県熊毛郡屋久島町尾之間136-6

Tel. Fax/0997-47-3588 E-mail/npo-jaga@po.minc.ne.jp

URL:<http://www.minc.ne.jp/~npo-jaga> 代表 楯篤雄

ブログ : <http://blog.canpan.info/jagaimo/>

## これまでの事業計画



塩炊き作業

月日の経つのは早いもので、9月に口永良部島の豆腐作りワークショップを行ってから気が付けば3ヶ月が過ぎ、もう12月です。忙しく動いてはいるけれど何か変わって来ているのだろうか、ちょっと振り返って見ました。

障害者の就労支援事業を拡充しようと2014年度の事業計画の中に豆腐屋事業の準備、それに向かって昨年の12月には「みんなのうちに」スタッフ2名が就労支援事業の人員基準に必要なサービス管理責任者資格を取得しました。今年1月に臨時総会を開催し、定款の変更を承認して頂き、5月には県の認証も受けました。そして2015年度の事業計画には「グループホーム開設の準備」「豆腐屋事業（就労継続支援B型）開設へ向けての準備」とあります。現在グループホームの立ち上げに際して、共に関わろうと「手をつなぐ育成会」が尾之間集落内にある空き家周辺の環境整備や片付け、物置小屋の建築に取り組んでいます。まもなく親達を中心となりグループホームの体験を始める予定です。「じゃがいものうち」としては、グループホーム事業開設に向け人員基準に必要なサービス管理責任者資格の取得のためスタッフ1名が現在講習を受講中です。そして就労継続支援B型事業申請書類の作成に取りかかっています。事業開設に向けての動きはゆっくりではありますが、着々と進んでいると思います。平行して短期、中期、長期の事業計画を作成し、会員の皆様の理解と、行政・関係機関との連携を深めて行きたいと思っています。

障害者福祉サービスの所管法「障害者総合支援法」では“障害のある人が可能な限り身近な地域で必要な支援を受けられる”ことを定めています。屋久島は必要な福祉サービスが今はとても少ないのですが、これから一つひとつ増えて行くことを願い、歩みは遅くとも着実に取り組んで行きたいと思えます。

(楯 篤雄)

# みんなのおうちコーナー

(安藤亮)

秋も深まり肌寒くなってきましたが、「みんなのおうち」の利用者さんはみんな元気です。

さて、10月からは新しい利用者さんが2名増えました。万永清治（まんながきよはる）さん、寺田義廣（てらだよしひろ）さんです。お二人ともに週一回の利用ですが、スタッフ、他の利用者さんとも慣れ、おしゃべりしたり作業を手伝ってくれたり楽しく過ごしています。

また、11月からは新しいスタッフも増えています。看護職員の安藤智美（ともみ）さんです。来年の6月には出産を控えているので、来年3月くらいまでの期間ですが、体には十分気をつけて無理のないよう、一緒に楽しく「みんなのおうち」を盛り上げて行ってほしいと思います。

話は変わりますが、9月に車検を終えたばかりの送迎用車両が最近エンジントラブルを起こしてしまい大変困っていました。そこにタイミングよく譲ってくれる方があり、事なきを得ています。1月には車椅子対応の大型車両を寄付してくださるとの話もあり、「みんなのおうち」「じゃがいものおうち」がたくさんの方々の支えで成り立っているなあと改めて思いました。この流れを今後も大事にして、来年の運営へとつなげていきたいと思っています。



【↑みんなで屋久島郷土かるたを楽しむ】

## 2015年度行事報告

### ■8月26日 お楽しみ感謝祭 (大垣千鶴)

「みんなのおうち」の利用者さん、スタッフ、「じゃがいものおうち」の会員の方、しゃくなげ未来館の人達あわせて34名の参加のもと、にぎやかに行われました。

台風の影響でもりけんさん御一行の到着が遅れたため、紙芝居をしたり「楽団みんな」が練習してきた「カントリーロード」と「365歩のマーチ」を歌ったりして、何とか昼食の時間まで楽しく過ごせたと思います。「楽団みんな」の歌の時には「みんなのおうち」の利用者の永田香那さんの見事な司会と歌声に皆びっくりでした。(いや、びっくりしたら失礼か・・・でも、知らない人がたくさんいるところではいつも緊張で固まっているのに)人は障がいがある人もない人もみんな得意なことなど何かのきっかけで自分の壁を乗り越えられるんですね。午後からは無事到着したもりけんさんのいつものなごやかなコンサートを皆で楽しみました。

### ■9月6日 〇永良部島の方との“憩いの豆腐作りワークショップ”

臨時増刊号にて報告済

### ■10月20日 安房小4年生との交流、じゃが芋の植えつけ作業 (大垣千鶴)

気持ちのいい秋晴れの中、40名の子ども達がながーいロープにそって並びその下に種芋を置いて土をかぶせていく。ちゃっちゃとやる子もいれば1, 2ヶ置いて土をかぶせ、あとは何もせずしゃべってる子もいる。それぞれ個性が出ていて面白い。私は遅れて行ってどこに入ったものかと眺めていると、あちこちから「おはようございます」と元気な声が・・・あまり挨拶の得意でない私は「いやー挨拶って大事だなあ」と思った次第。つられて私も元気よく「おはよう」と返し無理矢理割り込んで一緒に種芋植え。「じゃがいものおうちの人はいないなあ」と言うと、それを聞いた子がすかさず「エーッ



じゃ意味ないじゃん。じゃが芋と交流するの？」そうだ君は的を得ている。私もそう思う。そんなこんなしている内にポチポチ障がいのある「みんなのおうち」の利用者さん、遊びに来てくれた車イスの方とパートナーの方が到着。子ども達にまじって作業をする人3名、見学3名。

作業が早く終わったので、参加者皆で自己紹介・・・こういう時に、障がいのある人が自分の障がいについてちょこっとしゃべれるといいのになあと思うが、それはなかなかむずかしいこと。私だって、自分のことちょこっとなんて、しゃべれないよねえ。自己紹介のあとは握手タイム。ちょっと恥ずかしかったけど、握手して個別に話せてよかったのかも。久々の畑仕事も気持ちよかったし、小学生と話すのも楽しかったし、前回の交流事業のじゃが芋の収穫の時よりは“交流”になっていたと思うし、いい1日だった！！

## ■ 10月22日 熊毛地区手をつなぐ育成会合同運動会 (安藤 亮)

今回は障がいのある人11名を含む、「育成会」「しゃくなげ未来館」「みんなのおうち」より総勢23名の参加となりました。

当日はトッピーが宮之浦発に変更になったため、皆さん朝早くから準備や移動に忙しかったことと思います。トッピーで無事種子島に到着すると、港からは「NPO法人こすも」のスタッフの送迎で運動会会場「たちばな園」まで移動しました。すでに会場には他の事業所の方々も集まり始め、グラウンドでは「たちばな園」のスタッフによるダンスのデモンストレーションなどを行っていました。

さて、運動会プログラムが始まると、皆それぞれ自分ができそうな種目に進んで参加していました。短距離走 50 m、100 m、障害物競争、輸入れ、玉入れ、ビン倒しなどのバラエティーに富んだものがたくさんあり、皆生き生きとした表情で楽しむ姿が印象的でした。

普段は出かけたくても出かけられない、やりたくてもできない、そんな思いが一気に爆発するかのよう、その表情と行動に表れていたような気がします。年に一回と言わず、二回三回とこんな時間を過ごせるような支援をこれからもしていけたらなあと思いました。



## ■ 11月26日 安房小との福祉交流会

(四宮 英代)

視覚障害者2名、車椅子の方1名と安房小学校4年生(41人)、6年生(32人)との福祉交流会がありました。

目標としては「福祉に学ぶ活動の中で人に優しく接することの大事さに気づき、思いやりのある心を持って周りの人々に接していこうとする態度を養う」ということでした。視覚障害者が普段どのように生活しているか、生活する上での苦労や不安、また喜びについて話をしたいとのことでした。



中井さんの話・・・ほとんど全盲ですが、音声による生活補助具をフルに活用し不自由や不便失敗はあるものの、何とか普通に近い生活をこなしています。

### 「補助具の紹介」

①針通し②体温計③目覚ましや腕時計④倒してもこぼれない醤油や油さし⑤電磁調理器での揚げ物⑥タグ(とめがね)を使つての洗濯や冷蔵庫内の整理⑦携帯電話でのコミュニケーションなど使い方の指示を音声に従って行っています。

全盲に近いのですが、農業の手伝いをフルタイムでパートさんと週3回ぐらいしています。仕事と家事の両刀使いは見事なものです。

私は、白杖や盲導犬について、両方とも盲人の目の代わりになっているのに、近頃盲導犬を傷つけたり、白杖を使っている人に嫌がらせをしたり死亡事故もあるので、社会の人たちの関心と気遣いを願っている、という話をしました。

ヘレンケラーは「あなたの目の前のランプをもう少し高くかかげてください。ランプの明るさが更に大きくなり多くの人々が救われます」と訴えています。

持ち時間10分なので十分な話はできなかつたのですが、たくさんの質問が出ました。今後の彼らの成長が楽しみです。

## 送迎車輛寄付の御礼

(楯 篤雄)

「みんなのおうち」の財政は未だに戦いです。介護と自立支援の社会資源をこの屋久島に拡充する為に、スタッフはじめ、会員、ボランティアの方々に支えられての運営です。その中でも送迎車輛については、理事からの提供や会員の方からの提供で配備されてきています。一年半前に渡辺一夫様より、軽自動車をご寄贈頂き、フル稼働していましたが、この度エンジントラブルで廃車となってしまいました。その為、困っていたところ日高和子様より普通車5人乗りを提供して頂きました。宮之浦方面の利用者さんが増えている折り、一台での送迎が可能になったと喜んでいましたら、なんと車いす対応のリフト付き送迎車輛のご寄付のお申し出が、福原勝利様よりありました。年明け早々廃車がきまっている藤山理事から借りている軽自動車にも長いことお世話になりましたが、とても良いタイミングでのご寄付のお話。大変うれしい思いです。今後まだまだ「みんなのおうち」の利用が増え、賑やかになりそうな予感がします。

多くの方々の善意に支えられていることへの感謝を忘れずに、皆様の期待に応えて行きたいと思うばかりです。本当にありがとうございました。



# 理事会報告

---

## ■ 7月22日 第1回 (報告が主で特に話し合ったことはなし)

- ・法務局への届けが完了し「じゃがいものおうち」の事業として、就労B型もグループホームもできるようになった。
- ・鹿みそは、まだまだ研究の必要あり。(誰か試作品作りに手をあげて)
- ・グループホーム用の貸家の契約完了。物置建設中、サービス管理責任者の資格取得のための研修に1名、派遣。
- ・短期借入金 残り40万円(その後秋に返済をし、残り30万円)
- ・尾之間温泉祭りと「豆腐作りワークショップ」について
- ・学童保育について(困っている親がいるので「じゃがいものおうち」として何かできないか、という問題提起のみ)

## ■ 10月9日 第2回

- ・「みんなのおうち」の利用者は少しずつ増えているが経営安定のためには、もっと増やす必要あり。
- ・製品の売れ行き順調。
- ・安房小とのじゃがいもの植えつけについて(日程だけで、真の交流にするためには、どうしたらいいかは話し合われず・・・)
- ・種子島の障害者福祉事業者の暁学園と屋久島町、育成会、じゃがいものおうちで話し合いがもたれた。暁学園は屋久島の障害者福祉の向上のための手助けがしたいとのこと。はっきりしたことはわからないが、屋久島でグループホームなり就労支援施設なりを立ち上げる心積りがあるのかもしれない。愛心会も障がい者のグループホームを作っている。そんな中で「じゃがいものおうち」はどうするのか。この場では、総会でも話し合われたように、グループホームと就労B型を作る方向でやっていこうということに。
- ・障がい者の方は健常者の方の半分の時給で作業をしてもらっているが、半額にする人の基準が今まであいまいだった。基準を決める話し合いの中で、今度はその人が生活に困っているか否かで賃金を決めたらどうか、という提案があり喧々諤々。まず、誰がどういう基準で生活に困っているかどうかを決めるのか。無駄使いして困っていると言っているかもしれない。仮に、困っているからと健常者と同じ賃金にしたら、自分より仕事がやれていないのに同じ賃金なのかと労働意欲がなくなるのでは、という意見も。それなら能力給にしたら、という意見に対して又、誰が能力を決めるのかむづかしい、という意見。結局、障がい者手帳ないし障がい者年金手帳(大抵の人は両方持っている)を持っている人は持っていない人の半額、ということに決定。
- ・グループホームは今の法律では、障がい者用と認知症老人用しかないが、「じゃがいものおうち」で作るグループホームには老人もショートステイで受け入れるようにしたいがどうか、という理事長からの提案に対して、部屋が空いていれば自費で受け入れてもよいのでは、ということになった。
- ・行事が多すぎるのでは、という意見があり検討。産業祭は年度初めで大変忙しい時期なのでやめる、感謝祭は地域交流事業としてもりけんさんコンサートという形にしたらどうか、ということに落ち着いた。(皆様の御意見をおよせください)



# 新しい価値観の創出こそ

## — 1 理事の全く個人的な想い—

(大垣 千鶴)

理事会報告に書いたように、理事会で障がいのある人の作業工賃の決め方を話し合いました。その時に、私はいつか何かで読んでいいなあと思った「能力に応じて働き、必要に応じて取る」という考え方にそって、年金の有無にかかわらず生活に困っている人には健常者と同じ賃金をを払ったらどうかという提案をしたのですが、この提案は色々な理由で受け入れてはもらえませんでした。その理由の一つの、能力に応じて収入に差があることは妥当だということについて考えてみたいと思います。私達は能力の高い人が高収入を得るのが当たり前という世の中で育ってきました。でも私はそのことに対してずっと疑問を持ってきました。何で商社に勤めている人の方が、土方をやっている人より収入が高いの？どちらも社会にとっては必要な仕事なのに。能力のあるなしで測られる世の中は生産能力の劣る障がいのある人にとっては生きづらい世の中です。私は「じゃがいものうち」が障がいのある人と共に生きる社会を目指すなら、今までの能力主義の価値観から脱し、新しい価値観を作り出す必要があるのではないかと考えています。その新しい価値観がどんなものなのかははっきりイメージできているわけではありませんが、能力の有無だけでなくその人が自分の持っている能力をどれだけ発揮できたかで評価される世の中だったらいいのかなあ、

と漠然とと思っています。

もう1つ、種子島の運動会に行って考えたことがあります。とても楽しい運動会でした。だけど、なぜ障がい者だけの運動会なのか。ここでも、能力がものを言います。勝ち負けを競う普通の運動会では当然障がい者は出られません。(出られる競技もありますが) 勝敗などわからない小さい子もつまらないでしょう。もし、地域の運動会が、育成会の運動会のように勝ち負けのない、ただスポーツを楽しむものに変わっていけば、障がいのある人もない人も小さい子も老人ももっと楽しめるものになるのでは、と思います。それには、まずは障がいのある人も地域の運動会で、勝敗に関係のない種目に参加して、少しずつそういう種目を増やしてゆくよう働きかけることが必要なのでしょう。そうして障がいのある人とその仲間である私たちが、運動会を、ひいては社会のあり方を変えてゆく役割がはたせたらなあと思います。

これは私の全く個人的な意見です。最近私は、自分の思い込みの激しさに気付かされる出来事にたくさん遭遇し、「じゃがいものうち」のことも自分の中で捉え直さざるをえなくなりました。私が思っていることは、どこまでが「じゃがいものうち」全体(ということは会員の皆様)の思いなのか?それを知るために、皆様の声を聞かせて頂けたら大変有難いです。

## クレイファンデーション

この秋から、作業項目に「クレイファンデーションキット」のパッケージングが増えました!

神戸から屋久島へ移住したひらやませいこさんが、屋久島から全国へ発信しているクレイ(土・泥)のファンデーションを、みんなで丁寧に包装します。クレイ 100%ですので、お肌にとっても優しくて、ファンデーション以外にも足湯にするなど使い方は様々です。出来上がったキットは、「じゃがいものうち」でも購入可能です。ベースカラークレイ 30ml の他、4色のクレイが各 2.5ml ずつ入って2,376円です。ご興味のある方は一度試してみてください!クセになりますよ~。



# 2015かごしまの新特産品コンクール出品

(相良 知恵)

10月6日(火)鹿児島市のサンロイヤルホテルにおいて、「2015かごしまの新特産品コンクール」が開かれました。じゃがいものうちから出品する初めての商品は、たんかんジュースです。

じゃがいものうち発足から、自立支援と資金集めのために始めたたんかんジュース作り。今年、瓶(希釈タイプ)とパック(100%果汁)のデザインを一新して、このコンクールに臨みました。楯さんと私の他、会員の脇田由紀さんと娘さんの優さんにとてつもないご協力をいただいたおかげで、前日から(本当はもっと前の準備から!)当日までスムーズに行動することができました。

コンクールは食品部門は117点の応募数があり、一次審査では、山形屋や大隅加工技術研究センター、三越伊勢丹の方などに審査にいただきました。皆さんパックジュースの濃さと安さに驚いていました。バイヤーも数名試飲に来て下さり、非公開の二次審査の間には商談もさせていただきました。商談の結果、城山観光ホテル内のお土産屋さん(逸品館)でたんかんジュースパックをお取り扱いいただくことが決まりました!原材料のたんかんの量を考えると、今のところ島外でパックジュースを店舗常備していただくところはここのみとなります。

さてコンクールの結果は・・・残念ながら入賞はなりませんでした。コンクールの雰囲気を感じ、他の商品を見てまわり、色々なアイデアに刺激を受けることができたことは大きな収穫でした。

コンクールの一等となる鹿児島県知事賞は生かせるかでした。味だけではなく、鹿児島の代表となるインパクトある商品が目をつけたように思います。普段屋久島の中だけで商品販売をする私たちにとって、審査員の厳しい目で評価していただくことは、まだまだ沢山の可能性があるということを確認する機会でもあったと思っています。いつか(近い将来!)じゃがいものうちの商品が県知事賞をとって、今以上にみんなの自信となり誇りとなって、製造や他の活動を盛り上げていけるようになったらいいな、と思いました。

## 「介護職員初任者研修課程」屋久島開催

(楯 篤雄)

2010年までは「ヘルパー2級の研修」と呼ばれていましたが、在宅中心の内容から在宅・施設を問わない、介護職として基本となる知識・技術が習得できるようにと改められた「介護職員初任者研修課程」。屋久島のヘルパー不足を何とかしなければと屋久島町社会福祉協議会が一肌脱ぎ、鹿児島島に出ることなく、島内で研修が出来るようにと研修受講者を呼びかけ18名が集まり、開催されました。(今回は2度目の挑戦、一度目は受講生の応募が少なく断念)

9月から12月まで計12回の研修が行われています。講師として「西日本ヘルパー養成事業」から庄山正美先生にはるばる鹿児島より泊まりがけで通って来て頂いています。おもしろおかしく額に汗しながらの丁寧な授業で、受講生皆大変感謝しています。

高齢化社会が深刻になっている現在、介護職の人材確保が大きな課題です。介護職は、安い・きつい・汚い・帰れない、の4K職と言われてはいますが、一度しかない人生で、人の優しさ・思いやり・人として一番大切な部分、(恥ずかしいけど「愛」と言うのかな)を学ばせてもらえる素晴らしい職業だと私は感じます。どうぞ若いも若きも介護職でより豊かな人生を学びましょう。

### 年末年始のお知らせ

下記の期間お休みをさせていただきます。

じゃがいものうち 12月28日(月)～1月5日(火)  
みんなのうち 12月31日(木)～1月3日(日)

### 新会員紹介

ご入会ありがとうございます。  
一般会員 : 日高圭子さん  
団体賛助会員 : 石楠花会

# 2015年度行事予定

## ☆2015年餅つき会のお知らせ

日時 12月23日(水) 午前9時～午後3時

場所 「みんなのおうち」 駐車場  
「じゃがいものおうち」

持ち物 「マイ箸、マイ皿、マイどんぶり」  
エプロン、三角巾又はスカーフ、

昼食はつきたての餅、ごった煮汁を食べましょう!

※つき手、手返し、伝統の技体験。

共に楽しくやりましょう!

ご協力よろしくお祈りいたします!

## ☆お餅つき会準備のお知らせ☆

日時 12月22日(火) 午後1時～午後3時

場所 「じゃがいものおうち」

持ち物 包丁、まな板、エプロン

内容 ごった煮の下拵え、餅米の準備、  
会場準備

## ☆たんかんジュース作り作業

場所 麦生ぼんたん館

1回目 2月19日(金)～20日(土)  
午前9時～午後4時

2回目 2月24日(水)～25日(木)  
午前9時～午後4時

3回目 3月4日(金)～5日(土)  
午前9時～午後4時

安房小6年生との福祉交流作業は2月24日(水)です。

※ジュース作りは皮むき作業に多勢必要です。  
参加者を募集しております。

連絡は事務局(0997-47-3588)または  
楯(090-7440-5388)まで連絡下さい。

## ☆じゃがいも掘り(安房小4年生との福祉交流)

日時 3月1日(火) 午前9時～12時

持ち物 軍手、畑用の靴、バケツ

## 感謝録

(H27.8～H27.11 敬称略・順不同)

いつもご支援、ご協力ありがとうございます。(じゃがいものおうち、みんなのおうち)

小川裕子 山尾晴子 中路美佐子 大寶三千代 屋久島町社会福祉協議会 JR ホテル屋久島  
種子屋久農業協同組合 尾之間温泉 屋久島町農林水産課 屋久島町福祉事務所 メイビ  
山田圭一・由紀子 仁科富子 石我香織 川原ときよ 遠藤知子 渡辺一夫・まみよ 前田喜子  
安藤多鶴子 脇田由紀 日高和子 鈴木由美 村本栄子 須見半 星野享子 川上雄治  
高野千和子 楠忠久 柴田矢恵 永田香那 濱添愛子 大原貞子 溝口いくよ 岡野道子  
稲見風子 谷本正和 伊藤美樹 大園紀香

## 訃報

「みんなのおうち」の利用者でありました岩川清美さんが12月7日に永眠致しました。謹んで皆様にお知らせ申し上げます。享年62歳でした。心よりご冥福をお祈りいたします。



## 編集後記

12月中に78号を必ず発行しようと、11月中に原稿集めをほぼ完了したつもりでしたが、自分の原稿が後から後から…。編集部体勢が少し整ってきたおかげでなんとか落ち着いた通信作業でした。会員の皆さんご支援ありがとうございました。

何かとせわしない年の暮れ、健康に気をつけてよいお年をお迎え下さい。来年も引き続き「じゃがいものおうち」をよろしくお祈りいたします。

(楯 篤雄)